

みかん農園プロジェクト

平成 30 年度 活動報告

令和元年 7 月

神奈川県政策局未来創生課

「みかん農園プロジェクト」 平成 30 年度活動報告

1 目的

本プロジェクトは、大学生のフィールドワークを通じて世代間の交流を促進し、地域課題の解決や地域活動に参加し、活躍する人が増加するしくみの創出をめざす。

2 実施メンバー

神奈川県、小田原市、シニアネットワークおだわら&あしがら、関東学院大学

3 モデル事業の実施経緯

(フィールドの選定)

モデル事業のフィールドは、小田原市が提案した耕作放棄地を再生したみかん農園を選定した。

このフィールドでは、シニアネットワークおだわら&あしがら（以下、SNOA）が 40 年間耕作放棄された農地を開墾し、植栽、成木への育成と整備を進めており、農園の活動を通して、シニアに農業体験の機会を提供するとともに、健康保持・生きがいをづくりに寄与することを目的に 2016 年から活動している。

このような動きを今後拡大していくために、大学生のアイデアを生かし、新たな展開や持続可能な手法を研究し、社会実験として実践することで耕作放棄地の解消とともにシニアの居場所づくりとなるモデル事業の構築を図ることとした。

(フィールドワークを実施する大学の選定)

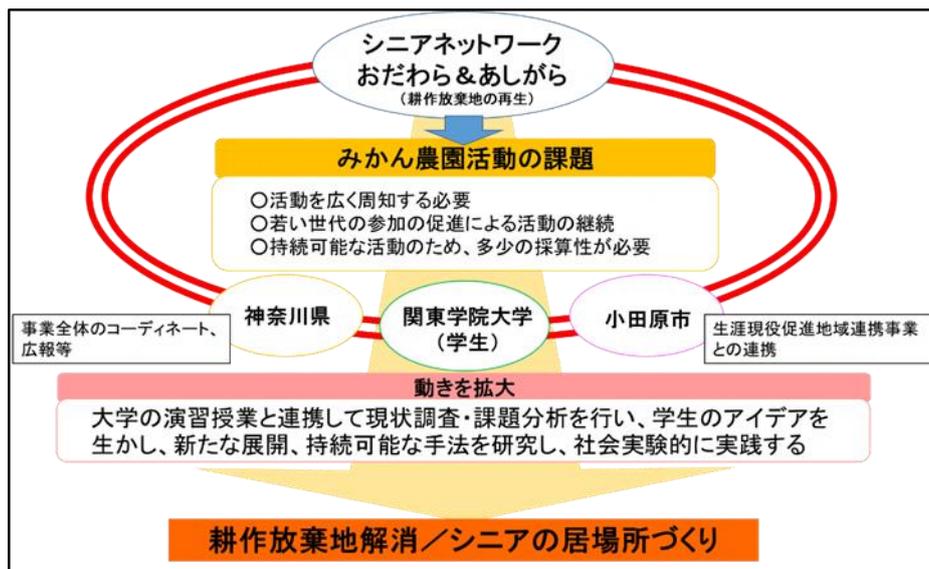
フィールドワークを実施する大学については、関東学院大学から人間共生学部共生デザイン学科二宮咲子専任講師のゼミナールにおいて、フィールドワークによる課題の分析・解決を演習授業の課題として、2 年生から 4 年生までの約 20 名の学生が取り組むことができると申し出があった。

二宮講師のゼミナールは「自然環境をフィールドとした産官学民の協働によるソーシャルデザイン」をテーマとしており、自然と共に生きる望ましい社会のあり方についてフィールドワークを通じて学習している。

(県、小田原市、SNOA、関東学院大学間での連携事業の実施)

県、小田原市、SNOA、関東学院大学が協議し、次のとおり合意し、平成 30 年度から連携して事業を実施することとした。

フィールドワークを通して大学生が小田原市の地域特性やみかん農園の活動状況等の調査を行い、調査で得た情報を活かしたブランディングや広報を検討し、魅力的なイベントや新しい商品の開発等を提案する。これらの活動により新たな展開や持続可能な手法の創出をめざす。



<プロジェクトスキーム>

3 活動状況

(みかん農園での活動調査)

フィールドワークは大学生が主にSNOAの活動に参加しながら実施し、参加者の様子や声、作業の内容、みかん農園の状況等の情報を収集した。みかん農園への調査を一年間通して実施し、農園の状況や活動の変化を大学生が直接感じることができた。



<フィールドワークの様子>

(小田原市内の調査)

大学生が地域課題の分析、解決に向けた提案を検討するにあたり、小田原市の歴史や地勢、産業などの地域特性を理解していることが必要であるため、10月にみかん農園と一夜城ヨロイツカファーム(マルシェを併設するレストラン)、小田原宿なりわい交流館、小田原城址公園等の調査を実施した。



<一夜城ヨロイツカファーム>



<小田原宿なりわい交流館>

(調査報告会の開催)

12月に中間報告会を開催し、大学生がフィールドワークを通して検討した分析結果や改善提案についての中間報告を行った。また、提案内容について大学生とSNOAと意見交換を行い、提案の実現に向けて具体的な実施方法を検討した。そして、1月に最終報告会を開催し、農業サークルの立ち上げなど8つの改善提案を大学生が県、小田原市、SNOAに行った。



<最終報告会の様子>

4 平成30年度の成果

(大学生からの提案事項)

フィールドワークを通じた調査の結果、現在、シニアで行われている活動を若い世代に周知し、参加者を増やしていくことが最優先に考えるべき課題であるとの結論に至った。そこで、みかん農園の活動を維持するための提案として次の8項目の改善提案を大学生が行った。

- 提案1 農業サークルを立ち上げる
- 提案2 イメージキャラクターをデザインする
- 提案3 みかんの商品企画・開発をする
- 提案4 みかん農園を観光バスツアーの行き先の一つとする
- 提案5 SNSを使用し若者を獲得するツールを作る
- 提案6 みかんを使った加工商品のパッケージデザインを制作する
- 提案7 みかんを使用した草木染イベントを開催する
- 提案8 みかんを使ったペット用フードの企画・開発をする

これらの提案をイベント、普及啓発など内容に応じて次の4事業に整理し、令和元年度に実証を行うこととしている。

(1) 農業サークルの立ち上げ

関東学院大学が継続的にSNOAと協働して活動し、農園の拡大や資金不足の解決、広報活動の活性化を行うしくみづくりとして関東学院大学農業サークルの立ち上げが提案された。

活動内容や連携の方法を両者が協議し、令和元年度の活動開始をめざす。



<農園サークル募集チラシ（制作：関東学院大学二宮ゼミ2年生・農業サークルチーム）>

(2) イメージキャラクター・ロゴのデザイン

SNOAの活動を広報するツールとして、イメージキャラクター・ロゴのデザインが提案された。今後、広報媒体や商品パッケージ等に活用することで、活動に親しみやすさを持たせ、効果的な宣伝に役立つことが期待できる。



<イメージキャラクター・ロゴ（制作：関東学院大学二宮ゼミ2年生・キャラクターデザインチーム）>

(3) みかんの商品開発×イベント企画

誰でも簡単に作れる商品としてみかんの皮を活用した砂糖漬け（ピール）や草木染を開発し、その商品を使ったイベントを開催する提案がされた。誰でも気軽に体験できるイベントを開催することで、参加者の裾野を広げ、農園での活動を広く周知することをめざす。



<みかんの皮の砂糖漬け（制作：関東学院大学二宮ゼミ2年生・商品開発チーム）>

(4) SNS等を使用した活動の広報

広い世代に活動を周知し、多世代の交流を図っていくため、活動記録や写真をSNSやホームページで発信していく提案がされた。まずは大学生が主体となって取組み、SNSの情報発信やホームページの作成方法をシニアに伝え、効果的な広報を行っていく。

(その他の成果)

(1) SNOA活動を周知するポスターの制作

「シニアの居場所を可視化するデザイン」というテーマのもと団体の活動を周知するポスターを大学生が制作した。市民交流センターに掲示する等参加者募集に活用している。



<活動周知ポスター（制作：関東学院大学二宮ゼミ4年生塚本美帆氏）>

(2) モデル事業実施による参加者の増加

本事業が高齢者と大学生の交流によるみかん畑再生プロジェクトとして新聞に取り上げられ、関心を持った4名が活動に参加した。4名はその後SNOAに加入し、継続的に活動を続けている。

(3) SNOAに与えた影響

大学生が活動に参加したことについて、SONAの会員からは、「一緒に活動する若い人の笑顔をみるだけで元気が出る」、「自分の経験を若い人に伝えられるというやりがいを感じた」、「大学生がいることが自分たちの活動の刺激になる」、「SNOAの会員間でも普段見落としていた点に大学生とのヒアリングにより気が付くことができた」という意見があった。

大学生のフィールドワークを通じた多世代交流によりSNOAの活動も活性化が図られている。

(4) 大学生に与えた影響

フィールドワークを通してSNOAの活動に参加した大学生から、「若いうちからいろいろなことに挑戦したい」、「自分の居場所を見つけることが大切であると思った」等の意見があった。大学生にとって、地域活動や今後の人生について考えるきっかけとなった。大学生からの意見は巻末に「フィールドワークに参加した大学生の声」として記載する。

5 令和元年度の実践

大学生によるフィールドワークを引き続き実施し、平成 30 年度に提案のあった事業の実証を行っていく。

また、本取組みのように大学生のフィールドワークを活用し、官学民が協働して地域課題を解決していくモデルを広く展開していくためのスキームを検討していく。

<フィールドワークに参加した大学生の声>

SNOAの活動に触れ、自分自身の人生についてどのようなことを考えたか、大学生から意見を収集したところ、以下のとおりであった。

○ 自分の居場所を見つけることが大切であると思った。自分は趣味が沢山あるため、趣味を通して自分の居場所を見つけたい。趣味の楽しさを共有できる居場所を見つけ、趣味をより好きになることができればと思う。

○ 小田原のみかん農園での活動は、私たちの将来にも関係する事だと感じた。生きがいとなるコミュニティを作り広める事は定年後の生活を豊かにし、やりがいを見つけるための助けになる大切な事だと思った。

○ フィールドワークに参加するまではシニアの方々は自分のペースでのんびり生活したいと思っていると考えていた。しかし実際はそんなことは無く、働きたい、動きたいという方が多いということに驚いた。

この活動に参加しているシニアの方は皆楽しそうで、とてもいきいきとしており、年齢を感じさせないほどであった。この活動が生きがいとなってシニアの方々の力になっているとフィールドワークに参加し、実感した。

私は老後、働かずに生活したいと思っていたが、SNOAの方のように何か活動に参加することも楽しそうで良いと思った。

○ 年齢が上がるにつれて外出する事が少なくなると思うが、このような活動があると知れて、自分がこの先生きていく中でいくつになっても色々な事に挑戦してみようと思った。

○ 今が一番楽しいと感じており、人生は20代を過ぎたらほとんど終わったようなものだと思っていた。しかし、SNOAの方々が長年培ってきた知識やスキルを生かして、活動に取り組む姿を見て、老いてこそ人生なのだと思えるようになった。

○ フィールドワークを通して、自分のこれからの人生について考えさせられた。SNOAのみかん農園の活動を見学させていただき、シニアの方々がとても元気に活動されていて、自分も歳を取ってもこのように元気でいたいと思った。人生100歳時代ということでもだまだ自分の人生これからであると感じた。まだまだ自分も夢を持って日々を過ごしていきたいと思う。

○ シニアの方々が楽しそうに活動している姿がとても印象的だった。人生100年時代になると聞いて、シニアになってもこの方々のように行動し続ける事は健康にもつながり、仲間の輪を広げるにも良い事だと思った。そしてなにより仕事を定年退職して、活動しなくても良いこの時代に流されず自分から行動を続けていく事は人生をととても充実させていく事に繋がると思った。

- シニアの方々の関係をととても羨ましく思った。自分も時間ができた時には旅行に行ったり家族との時間を過ごし、友達とカフェに行ったり、遊園地にも元気で行けるような人生を送りたい。
- SNOAの方々と交流した際、とても元気で活気に満ち溢れている場所・人達だと感じた。自分の地元ではSNOAのようなコミュニティは無く、外で活動をしている元気なお年寄りをあまり見かけない。SNOAをベースに多くの活動コミュニティが増えたら各町に活気が溢れてくるのではないかと思った。
- SNOAの活動に参加し、自分が思っているシニア世代とは違い、生き生きとして活力のある方が多かった。年齢を言い訳にすることなく、いくつになっても新しいことに挑戦する姿が印象的だった。新しい知識を得る、新しい人と出会い、友達を作るということは、何歳になっても重要なことだと感じた。

また、近くにSNOAの様な活動の場がないと、中々自力では、新しい人の和に入ることは、難しいと思う。そのため、1人でも多くの方にSNOAの活動を知ってもらいたいと改めて思った。

SNOAで活動する方々と同じ年齢でも、認知症などで介護されている方も多くいる。人生100歳時代に向けて、今から健康への意識を改め少しでも健康寿命を延ばし、普段から挑戦をする癖をつけ、多くの人と打ち解けられるコミュニケーション力を身に付けようと思う。100歳まで笑顔が絶えない人生でありたいと思った。
- とても元気で笑顔で活動されている方が多いことが印象的で、私自身もいつまでも元気で笑顔の多い人生にしたいと思った。活動している場所の景色がとても良く、海を眺めながらの作業はとてもリフレッシュすることができ、心の健康にも繋がる活動であると感じた。私自身自然が好きということもあり、定期的にこのように自然に触れることが出来る活動にはとても関心を持った。
- 自分達が100歳になった時は、今よりももっと長生きのライフスタイルがあると思うが、根本は変わらないと思う。地元の人と集まってみんなで体を動かし成し遂げるとことはいつになっても楽しいと思った。
- シニアの方々が元気に活動をしていることを知り、自分も若いうちから様々なことにチャレンジしていこうと思った。チャレンジしていくことが良い経験となり、これからの人生に大きな役割を果たしていくのではないかと感じた。